

令和 5（2023）年 3 月 16 日

**「兜飾り」がリードする今年の五月人形商戦
早まる購入時期 進む ほどよいサイズ化傾向**



男の子の健やかな成長と幸せを託す五月人形（東京・浅草橋 吉徳本店）

初節句を迎える男児の健やかな成長を祈り、家族親族でお祝いする「端午の節句」。そして、そのかたわらに並ぶ“五月人形”。古来、“五月人形”はその子どもの身代わりとなって災いから身を守る“お守り役”とされています。

まもなく本格化する五月人形商戦を前に、株式会社吉徳（111-8515 東京都台東区浅草橋 1-9-14、創業正徳元年・1711 年、資本金 1 億円、社長：12 世山田徳兵衛 <https://www.yoshitoku.co.jp/>）は、浅草橋本店をはじめとする全国 12 直営店舗にて五月人形購入のお客様がゆったりと納得の人形選びをしていただけるよう万全の体制を整えています。

コロナ禍の落ち着き 押し上げる購入時期

購入時期については、一般的にはお彼岸の時期を過ぎた 3 月下旬から 4 月前半とされていますが、今年は例年に比べて、各店舗とも桃の節句直後からお客様が多く来店され、まずまずの出足となっています。コロナ禍も一定の落ち着きを見せ、マスク着用等が個人の判断にゆだねられたことなど、以前のような外出時の懸念が少なくなったこと。さらには品ぞろえが豊富な早

い時期に好みの人形をじっくり選んで、長く飾って楽しみたいというお客様の気持ちの表れと見ています。

今年も商戦の中心は「兜飾り」

五月人形の定番は「兜飾り」と「鎧飾り」です。いずれも素材は吟味され、作りは繊細で、伝統的な様式美を再現するなど、作り手の本物志向はますます徹底しています。

商戦の中心は、今年も「兜飾り」中心の展開です。

従来、「怖い」「組み立てが面倒」といわれ、兜人気に遅れがちだった「鎧飾り」ですが、最近ではその“誤解”を解くための店舗側のPRが奏功し「兜」に迫る勢いを見せています。

また、五月人形には「顔がない」とされていた中で、今年のトピックとして愛くるしい子どもの武者が鎧兜をまとっている「鎧着大将飾り」が“カワイサ時代にマッチする”と一定の人気を集めています。

サイズについては、洋式化が一般的になっている最近の住宅環境のために、全体的には間口 50cm 程度の「ほどよいサイズ」が好まれる傾向が強くみられます。

五月人形の価格幅と売れ筋価格帯

五月人形は、「種類」や「サイズ」、「作者」などの違いで価格が大きく変動します。吉徳では下記の価格帯（税込）を中心に品ぞろえをしています。

- ・ 兜飾り . . . 100,000 円～500,000 円
- ・ 鎧飾り . . . 200,000 円～600,000 円
- ・ 収納箱飾り . . 100,000 円～200,000 円
- ・ 鎧着大将飾り . . 143,000 円～203,500 円
- ・ ケース兜飾り . . 80,000 円～130,000 円

売れ筋価格は「兜飾り」が 18 万円前後（税込）、「鎧飾り」は 25 万円前後（税込）と見ています。これは昨年とほぼ同様です。

以上